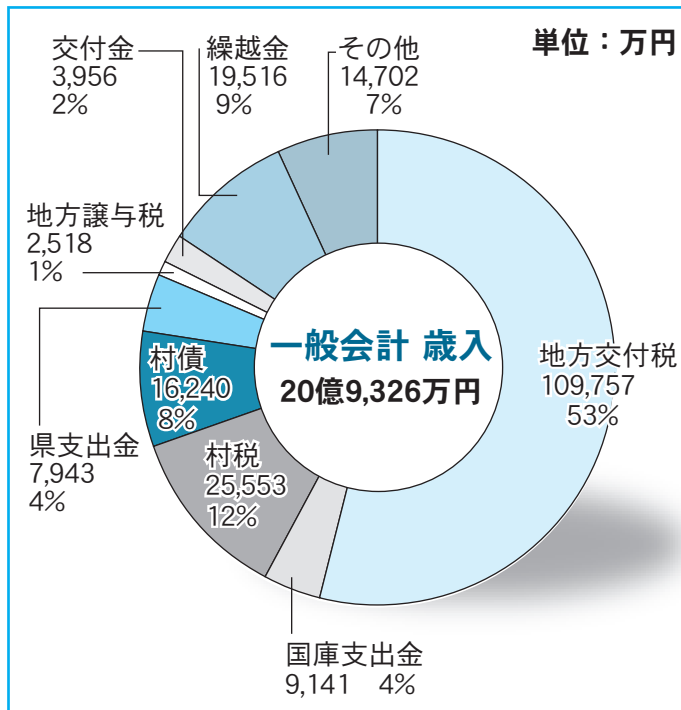


平成23年度決算報告

平成23年度決算が9月に開催された村議会定例会で認定されました。一般会計では、歳入総額が20億9,326万2,522円、歳出総額が19億1,124万4,067円で、差し引き1億8,201万8,455円の黒字決算となり、24年度へ繰り越しました。これは、平成22年度と比較すると、歳入で3億1,351万2,243円(13・03%)、歳出で3億3,690,244円(13・58%)の減額となっています。

平成23年度一般会計の状況

歳入総額 20億9,326万円
 歳出総額 19億1,124万円
 差し引き 1億8,202万円
 の黒字決算となりました。



平成23年度は、22年度と比較して、歳入が3億1,351万円

の減少となるなか、歳入に見合った行政運営が行われました。繰越金や繰入金は昨年度と比較して増額となりましたが、地方

交付税をはじめ、村税や国庫支出金・県支出金等ほとんどの項目で減額となり、総額としては3億1,351万円の減額となりました。

主な費目の概要は次のとおりです。

地方交付税は、財源不足を補うため国から交付され、村の歳入の骨格となっており、22年度に比べ832万円の減額となりました。

村税は、村民の皆さんから納めていた、たいした固定資産税や住民税で、村の自主財源のほとんどを占めているものです。22年度に比べ2,599万円の減額です。

村債は、村が事業を行ううえで、財源不足を補うための借入金ですが、東小学校校舎内装木質化事業や和紙の里細川紙紙すき家屋屋根ふき替え事業、さらに合併処理浄化槽設置事業のための借入金と、過疎対策事業では将来交付税措置される有利な特例地方債(臨時財政対策債)および過疎対策事業債を借入れています。22年度に比べ

1,083万円の減額です。

繰入金は、主に財源不足を補うために基金を取り崩して繰り入れたものですが、22年度に比べ6,957万円の増額となりました。

繰越金は、22年度に比較して4,305万円の増額です。

特別会計の決算状況

会計区分	収入済額	支出済額	歳入歳出差引額
国民健康保険	4億7,293万円	4億2,526万円	4,767万円
介護保険	4億636万円	4億610万円	26万円
浄化槽設置管理	4,708万円	4,599万円	109万円
後期高齢者医療	3,303万円	3,285万円	18万円
村営バス	1,942万円	1,942万円	0万円
簡易水道	7,070万円	6,721万円	349万円